

海賊対処の第41次派遣部隊が無事任務を終え帰港する

～ 派遣海賊対処行動水上部隊（第41次隊）帰国行事の様 ～

ソマリア沖・アデン湾における海賊対処行動に従事するため、第41次派遣海賊対処行動水上部隊が今年1月9日に日本を発って以来約7か月ぶりとなる8月10日に呉基地（広島県）に帰港した。

本隊は、指揮官を第4護衛隊司令高橋秀彰1等海佐とし、田村真禎艦長が指揮する護衛艦「さみだれ」で、海上保安庁の塚原隆一ソマリア派遣捜査隊長を含む海上保安官8名が乗艦し、200名を超す乗員が事故無く任務を遂行し、帰国した。

派遣期間中は、ソマリア沖・アデン湾において2回の護衛活動を実施したほか、海域を分担して警戒するゾーンディフェンスで多くの商船の安全を確認した。

これに加え、新たに付与された中東地域における関係船舶の安全確保に必要な情報収集活動にも従事してきた。

新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置が広島県で講じられたため、当協会は出国行事に参加できなかったが、今回の帰国行事には、5月にジブチにおいて開催された海賊対処行動拠点10周年記念式典への出席の機会をとらえ、現地に同部隊を訪問していた友田圭司副会長および海務部長が出席した。

厳しいコロナ感染症対策が講じられたなかでの帰国行事は、検疫の都合上、着岸した「さみだれ」から乗員が岸壁に上陸することが出来ず、後部甲板に整列し、舷側越しに執り行われた。

「さみだれ」艦上からは高橋司令が甲板上から大きな声で「任務を終え、ただいま帰国しました」と報告した。

呉地方総監伊藤弘海将が、岸信夫防衛大臣の訓示を代読、「大変な苦勞であったと思う」と隊員の労をねぎらうと共に、留守を預かった家族への感謝の言葉をも述べた。

艦隊司令官湯浅秀樹海将の訓示ではコロナ感染症対策に配慮しつつ、海賊対処行動と情報収集活動の任務を完遂したことを評された。

友田副会長からは、「海賊対処行動のお陰で日本商船隊が無事安全航行を果たすことが出来たことに感謝します。皆様、永らくの活動、お疲れさまでした」と7か月に及ぶ任務に謝意を伝えた。



帰国行事



艦上から帰国報告を行う高橋司令



防衛大臣訓示を代読する伊藤総監



訓示を行う湯浅自衛艦隊司令官



感謝の意を表する友田副会長



高橋司令と言葉を交わす友田副会長



協会を代表して参列した友田副会長